

第3・4学年 複式国語科 授業構想シート

授業者 平井 千恵

本実践の主張点	「声」に着目することで、地の文や会話文から情景を想像し、登場人物の人物像や心情、物語の伏線に気付いて物語を主体的に語るができるであろう。
---------	--

1. 単元名 聞き手の頭の中に情景が浮かぶように語ろう～ストーリーテリングに挑戦～
教材名「モチモチの木」「初雪のふる日」

2. 3・4年F組の子ども

<p>これまで文学的な文章の学習において、作品における感じ方や構成の共通点や相違点、例えば「ちいちゃんのかげおくり」と「一つの花」の学習においては、物語の設定(時・場・出来事)や登場人物はよく似ていること、登場人物(ちいちゃんやゆみこ)の心情と読者の心情は同じ場面においても違ってくることなどに気付いてきた。それを活用し、次の作品を読む時には、中心人物視点と読者視点での感じ方の比較をしながら話し合いを進める姿が見られた。このように、学習した見方を活用し学習を進めることで、その見方での読み方が強化され、汎用できるようになってきている。一方で、叙述を根拠に理由を語ったり、記録をしたりすることにおいては、まだまだ不十分である。</p>

3. 何を学ぶのか

① 単元の目標

登場人物の性格や気持ちの変化、情景をとらえて感じたことを声で表現することができる。

② 教材の価値

<p>「モチモチの木」は、語り手に感情があり、語り手の登場人物に対する見方を感じる作品である。この語り手によって自ずと読み手も語り手と同じ見方で登場人物を見る。このように、語り手と感じ方になって読むことで登場人物の変化がより大きく感じる作品である。一方「初雪のふる日」は淡々と語る語り手によって物語は進んでいくファンタジー作品である。無表情な語り口が、登場人物の心情や情景から感じる怖さを更に引き立てている。2つは地の文の語り方が対照的ではあるが、登場人物の気持ちや情景が表現豊かに描かれており、使われている言葉にこだわって音声表現することで、登場人物の心情や人物像、物語の伏線をより具体的に想像することができると思う。</p>
--

4. 主張の具体

<p>本実践におけるしかけは主に2つである。</p> <p>1つ目は、単元を通して1つの見方で物語を検討することである。教材の価値においても述べたが、本実践では言葉にこだわることでその場面の様子や気持ちを具体的に想像させたい。そのためのかげとして「声」に着目させる。「声」に着目させることで、子どもは、会話文や地の文をたよりにどのような口調(声の出し方や言葉の使い方に表れた特徴)で読むかを考える。この時、登場人物の人物像や気持ちを自ずと想像することになる。そして、音声でどのように表現するのかを考えることで、今一度言葉にこだわりながら(気付く)、より具体的に人物像や心情、伏線などを想像し(決める)、音声で表現する(動く)。つまり、言葉についての自分の捉え方を言葉や音声によって表現することで、他者と対話しながら考え、言葉を正確に理解し、適切に表現するための国語科としての力を付けることにつながる。</p> <p>2つ目は言語活動である。この言語活動を「音読」や「朗読」ではなく「ストーリーテリング」とした。この理由としては、聞き手を意識して目を合わせて読むことを目標にすることで、まずは自分がどのように感じたのかをしっかりと頭の中に想像することが必要になるためである。また、具体的に想像したことを伝えようとするすることで、知識を再構成しながら表現を考えることにつながるからである。以上の2つのしかけをもとに、人物像や心情、伏線の読みを深めていきたい。</p>

5. どのように学ぶのか

①学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

指導と評価の計画（全10時間） 本時 7/10

時	学習活動	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> 初読し、心に残った言葉や言葉の使い方の特徴の表出。 言葉の意味や使い方調べ。 ストーリーテリングに挑戦するという学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているか確認。【知①】観察・ノート
2 ～ 5	<ul style="list-style-type: none"> 声の数を検討。 声色の検討。 口調の検討。 表情の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。【知②】観察 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像しているか確認。【思①】観察・ノート
6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> キーワードの語り方（口調と表情）比較・検討。 前後の語り方比較・検討。（本時） 全体の語り方比較・検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっているか確認。【思②】観察・ノート
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ストーリーテリングに挑戦。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手を意識して学習したことをもとに積極的に物語を語ろうとしているか確認。【態】観察・ノート

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するためのカリキュラム・デザイン

◎伸ばしたい資質・能力：具体的に想像する、論理的に推察・検討する、聞き手を意識して語る

朝の読書活動：物語を聞いてその場面を絵に表す ↓			
物語のおもしろみを伝え合おう 「まいごのかぎ」 「ごんぎつね」 【主な学習活動】 ・物語の設定 ・心情の変化 ・物語の続き	比べて読もう 「ちいちゃんのかげおくり」 「一つの花」 【主な学習活動】 ・視点 ・役割音読 ・心情の変化 ・共通点と相違点	感じたことを話し合おう 「三年とうげ」 「プラタナスの木」 【主な学習活動】 ・起承転結 ・心情 ・物語のキー	聞き手の頭の中に情景が浮かぶように語ろう 「モチモチの木」 「初雪のふる日」 【主な学習活動】 これまでの学びを活用し、音声表現する。
主な学習活動を行うことで、具体的に想像、論理的に推察・検討する資質・能力を育成する。			

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしているか。(1)オ ②文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C(1)エ ②文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもっている。C(1)オ	読み手を意識し学習したことをもとに積極的に物語を語ろうとしている。

複式国語科学習指導本時案

授業者 平井 千恵

日時：2011年12月15日（水）第5校時（13：30～14：15）

対象：第3・4学年F組 16人

本時の気づき	物語の前と後ろの文や繰り返し出てくる言葉を比較することで、情景の違いに気づき、場面のつながりをふまえて再度語り方を検討する姿につながるだろう。
--------	---

1. 本時の構想（働かせたい考え方と学習課題について）

くらべる つなげる まとめる わかる 予想する 見方を変える

本時は、点から線へ、線から面へと物語全体の関係を把握させるための学習課題を設定し、学習して分かったことをもとに自分の解釈を入れて音声表現することを目標とする。物語の始めと終わりの地の文や、繰り返し出てくる物語の伏線となる言葉の情景を検討させることによって、より具体的に場面の様子を想像し、場面どうしの関係を把握することにつながると思う。そして、自分たちが初読で感じた気持ちと同じように聞き手の頭の中に情景が浮かぶような語り方を考えることで、自分たちの感じた気持ちがどの言葉から浮かび上がったのかということをも認識するとともに、それを伝えようと口調や表情を吟味する子どもたちの姿を期待する。

2. 本時における調整場面としかけ

本時における調整場面は、物語の前後や繰り返し出てくる言葉を比較し、その違いを整理することで（気づく）、語り方を再度考え直す（決める・動く）場面である。そのためのしかけとして、3年生では始めと終わりの地の文に着目させる。語り手自身が感情を持つ「モチモチの木」において豆太の行動をそばで語ってきた語り手の語り方（口調・表情）に変化はあるのかと問うことで、「おくびょう」だと言って呆れていた語り手が、最後は「それでも…おこしましたとさ。」と、おくびょうだとは言わず、面白おかしく語っていることに気付かせたい。その語り手の変化に対しての語り方（口調と表情）を検討させたい。4年生では、雪うさぎの歌が何度か出てくるが、それを聞いている女の子にはどんな変化があるのか分かるように語り方を検討させたい。そうすることで、始めは夢の中のように思っていた歌に対してどんどんと恐怖心が増す。しかし、最後の歌で心が温かくなってきていることに気付かせたい。その変化に対して語り方を検討することによって、同じような言葉でも情景の違いを理解しながら語る姿を期待する。

3. 本時におけるめざす子ども像

本時にめざす子ども像は、これまでに各場面でも考えた語り方を再度これでよいのか考え直し、前後を比較し、場面のつながりや人物の気持ちの変化などの関係を把握しながら語り方を吟味しようとする姿である。

4. 本時の目標

場面と場面を比べ、各場面における情景の違いが分かるような語り方を考えることができる。

5. 本時の展開

3年		4年		
留意点・評価	学習活動	学習活動	留意点・評価	
物語の前後をくらべて、より聞き手の頭の中に情景が浮かぶ語り方を考えよう。				
<ul style="list-style-type: none"> 本時について説明する。 語り手の心情に着目させるために、最後の一文に感じる気持ちを問う。 話し合いを焦点化して深く読ませるために、補助的な発問を行う。 「始めと終わりで語り手の何が違うの？」 学習メニューに沿っているのか確認しながら同時間接指導を行う。 	<p>これまでの学習をふりかえり、それぞれどんな語り方にしてきたか確認する。</p> <p>○学習かだい1 【はじめと終わりの1文の語り方(口調と表情)について話し合う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 始めは豆太のことを嫌っていたそう。でも、終わりは笑っていたそう。 語り手の心情がはじめと終わりで違う。 語り手の表情もちがってそう。 最後はやさしく語っている。 きっと豆太の勇気ある行動を見たからだと思う。 <p>○まとめ 始めと終わりで語り方は違った。それは、始めは意地悪そうに言っている語り手が豆太のやさしさや勇気をみて、やさしい子だと思って、ちょっとおもしろく語っているからだ。</p> <p>○ふりかえり 語り手の心情が変わっていたことが地の文から分かった。豆太の勇気が語り手を変えたんだな。それが分かるように練習したい。</p>	<p>同</p> <p>三問</p> <p>同</p> <p>四問</p> <p>同</p> <p>四問</p> <p>三問</p> <p>同</p>	<p>これまでの学習をふりかえり、それぞれどんな語り方にしてきたか確認する。</p> <p>○学習かだい1 【くり返し出てくる歌の語り方(口調と表情)について話し合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目の歌はそんなに怖く語らなくてもいいと思う。 最後は暖かくなっているから明るく語ればいいんじゃないかな。 真ん中は耳をふさぎたくなるくらいだから、すごくこわく語るといいと思う。 <p>○まとめ 雪うさぎの歌を比べてみると、始めは不思議だと感じていた女の子がだんだんと怖くなっていくことが分かった。そして、よもぎのクイズで歌が変わったことで温かい気持ちになっているから、語り方をだんだん怖くから温かい感じで語ることがびったりだと分かった。</p> <p>○ふりかえり 歌に目をつけたら、情景の違いがよく分かった。場面にびったり合うようにそれぞれの語り方を変えることができたと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時について説明する。 話し合いを焦点化して深く読ませるために、補助的な発問を行う。 「女の子にとって、歌の聞こえ方(雰囲気)は同じですか？」 学習メニューに沿っているのか確認しながら同時間接指導を行う。 <p>【思】これまで理解してきたことをもとに場面の様子の違いを具体的に想像し、語り方について考えをもって【観察・ノート】</p>